

(3) 3 学 年

同和問題（道徳）学習指導案

3年B組 男子19名 女子18名 計37名

指導者 森 口 健 司

1 主 題 誇りうる生き方を求めて

2 主題設定の理由

生きることの意味を一人一人の生徒と共に求めていきたい。これは私の願いである。それはすべての生徒の願いであってほしい。一人一人の生命は掛け替えのないものだから、力の限り美しく生きようと中学校最終学年のスタートを切った。

4月の学級開きの日より、私は生徒一人一人がいつか差別解消の主体者として常に美しい生き方を創造し、自らの生き方あり方に誇りを持って一人一人の人生を生き抜いてほしいと願い、同和問題学習に寄せる私自身の思いや願いを語りながら、人間としての生き方について問い続けてきた。

最終学年のスタート、2年生より生まれてきた学年全体による同和問題学習に寄せる思いを語り合う授業を通して、生徒たちは本音の部分語り出した。それは今まで漠然としか見えていなかった部落差別の厳しい現実を見せつけられることになった。私は同和教育とは、生徒たちの生命を大切に守り抜き、一人一人の生命を輝かせていく営みであると考えている。それはまさしく闘いである。西口敏夫先生の詩「よろこび」を幾度も反芻しながら、私は私自身を励まし続けてきた。

全学年が一丸となって取り組んでいる学年全体学習の度に生徒たちの中から、差別の膿が吹き出してきてきた。それは、対象地区の生徒にとっては自分がこれから歩んでいかなければならない荆の道を見せつけられることであり、人間としての生き方に目覚めていくことでもある。対象地区外の生徒にとっては、自分自身の意識の底にあった自分の醜い部分、自らの差別心を見せつけられることである。

そんな苦しい思いの中にあっても、生徒は自分をさらけ出しながら自分自身と闘おうとしている。その姿に触れるとき、私は共に苦しみ、自分の力のなさをあやまり続けながら、共に自らの思いをおつけていくしかないと思った。

3年全体で5月すでにすべてのクラスが公開授業の檜舞台を経験した。堂々と自分をさらけ出しながら、自らの思いをおつけ合う生徒。仲間の訴えの中で必死に涙をためて必死にうなずき応えようとする生徒。そんな中であって、まだまだ本物になっていかない生徒の姿もある。そんな生徒に対し、怒りをぶつけ、時には優しく、時には厳しく諭していく生徒の姿がある。

そんな仲間の思いに応えるかのように対象地区の生徒が自らをさらけ出して訴えていく。その思いに応えようと地区外の生徒が涙をこらえながら、その苦しく揺れる胸の内を語っていく。この同和問題学習は、お互いの存在、人間としてのあり方、生き方を確かめ合うものであった。同和問題学習があった翌日に記されていた生活ノートの一部を紹介する。

「今日の道德の時間、すごくつらかった。AさんやBさんが言っていた言葉の一つ一つが心につき刺さった。Aさんが泣いていたとき、僕はその気持ちが手にとるようにはっきりとわかった。僕も、部落にかかわることをよく聞いていたからだ。そのとき、僕も手を挙げて発表しようと思った。僕の手は震えていた。今までの部落にかかわる話やいろいろなことで頭の中がグチャグチャになっていた。僕は手を挙げた。先生が僕を指名した。僕はちょっと話ただけで涙が出てきた。AさんやCさんが泣いた理由がはっきりわかった。僕はもっと話すつもりだったけど、言葉が出てこなかった。これ以上話するのが本当につらかった。思い出ただけで涙が出てくる。自分でもなんで涙が出てくるのだろうかと思った。これからは頑張っってちょっとずつでも発表していこうと思う。道德の時間が終わって、D君とE君がきた。E君は『自分は部落の人間だ。』と言った。そして、『部落の人が悪いんと違う。差別する人が悪いんじゃ。』と言った。僕はなんかうれしかった。こんなことを言ってくれる友達がいることがうれしかった。」

まだまだ本物の同和問題学習への道は険しく、挫けそうにもなる、倒れそうにもなる。そのとき、私を励ましてくれるのは、私と共に生きることの意味、人間としての生き方を共に学びながら差別解消に向けて頑張ってくれる生徒たちの誠実な眼差しであり、生き生きとした笑顔であり、人間としての輝きである。その道がどんなに険しくとも、その歩みをやめることはない。その道が困難であればあるほどに頑張る力も大きくなる。そんな思いの中で今日までの営みを続けてきた。

私は、私自身が信頼する生徒たちと、丸岡忠雄さんの生き方を学んでいった。丸岡さんの生きざまは私自身の生き方に大きな影響を及ぼしている。高校3年生のとき、私は初めて「ふるさと」の詩を知った。こんな詩を著わすことのできる人が存在することがたまらなくうれしかったことを覚えている。そして、その詩を手帳に記し、自らを励まし続けた学生時代があった。その頃「ふるさと」の詩は私自身の心の支えであったが、私自身の生き方にはなっていなかった。

教師となって3年目、丸岡さんの著書詩集「部落」の中にある「意識の芽ばえ」という作品に出合う。これはまさしく自分のことだと思った。そして、そのとき手に入れた丸岡さんの講演のテープ（その講演が本資料「同和教育への希い」である）を繰り返し繰り返し自分の心に刻みつけるように聞き続けた。うれしかった。このような人が存在することがうれしくてたまらなかった。心の底から勇気がわいてきた。部落差別には絶対に負けなと思った。

その講演テープ、すなわち丸岡さんの生き方との出会いが、私が私のすべてをぶつけて取り組む同和教育のスタートとなっている。そして、その年の8月、60数年前全国水平社の創立大会が開かれた京都（岡崎）において私は佐藤文彦先生に丸岡さんを紹介していただいた。「丸岡です。（同和教育）頑張ってください。」という丸岡さんの声、そのときの丸岡さんの姿は、今も私の心の中で私自身の生き方を励ましてくれる。

私の心の支えであった丸岡さんの講演テープをその年、佐藤文彦先生が原稿にされた。その講演記録「同和教育への希い」を私の掛け替えのない仲間である板野中学校の生徒と共に学んできたと思った。

丸岡さんの生き方を学ぶことを通して、対象地区の生徒たちにどんな荆の道が待っているかが人間を尊敬し、親たちの生きざま、部落の先人の生きざまを誇りとして生き抜く力を育てていきたい。

また、対象地区外の生徒たちには、この学習を通して部落の仲間の悲しみ苦しみを自分の胸の痛みとしてとらえ、差別解消に向けて生き抜く力を育てていきたい。丸岡さんの生き方を学ぶことは、対象地区の生徒にとっても、対象地区外の生徒にとっても、人間としての誇りうる生き方を求めることだと思う。

丸岡さんが、気高く、清く、高らかに唱い上げた《ふるさと》の詩をはじめとする数々の詩に寄せて、人間として美しく生きるとはどういうことか、誇りうる生き方とはどういうことかを考えさせたい。

自らを誇り人間として生き抜くことは、苦しく、険しい、まさに荆の道である。しかし、その生き方こそ、人間として真実を貫いた誇りうる生き方であることを、丸岡さんの生きざまからとらえさせたいと願い本主題を設定した。

### 3 ねらい

《ふるさと》高州の厳しい差別の現実憤りを持たせ、「かくす」ことから「名のる」ことへと自己を変革した丸岡さんの誇りうる生き方に共感させながら、美しく生きることの意味を考えさせ、解放の主体者を育てる。

### 4 視点 集団と連帯

### 5 指導計画

#### (1) 常時指導

朝の学級会活動、帰りの学級会活動を教育活動の中心に据えた、すべての教育活動の中で人間の生き方や生きることの意味を追求する営みを大切に、毎日の生活ノートの営みを核として、日々人間の生き方を語り合い、学級目標である「美しさを求めて生きる人生」を合言葉に共感と連帯の絆に支えられた学級集団をつくる。

#### (2) 関連的指導 道徳「峠」

進路決定の瞬間を1年後に控えた中学3年、生徒一人一人の中にはさまざまな不安が胸にわきおこっている。この1年、人間としてどのように生きていくか、人間としてあるべき姿を考えながら、主体的な生き方を自覚させるために、詩「峠」を一人一人の胸に刻みつける。

#### (3) 核心的指導

第一次 道徳「自分以下を求める心」……………2時間

第二次 道徳「同和教育への希い」……………6時間(5/6)

#### (4) 発展としての関連

特活「すばらしい生き方に学ぶ」

同和問題学習の中で生徒一人一人がつかみ取ったもの、学び得たものをクラス全体で語り合い、人間としてよりすばらしい生き方とは何か、私たちが求めていかなければならないことは何かを確認し、生徒一人一人の部落差別解消に取り組もうとする実践力を育てる。

(5) 常時指導

仲間の幸せの中に自らの幸せを見出し、仲間の悲しみをみんなで幸せに変えていこうとする共感と連帯の絆を土台とし、人間を大切にする、人間を尊敬する教育をよりいっそう推進していく。部落差別の悲しみは人間の悲しみなんだという視点に立ち、家庭・地域社会において部落差別解消に取り組む態度と一切の差別を許さない生き方をすべての生徒の中に育てる教育を実践していく。

6 本時の指導

(1) 目標

差別の現実から学ぶことにより、憤りを持たせ、誇りうる丸岡さんの生き方に共感させ、差別解消に向けて主体的に取り組む強い意思と連帯感を育てる。

(2) 展開

学 習 活 動	主な発問と期待する生徒の反応	指導上の留意点
<p>1 「同和教育への希い」を読んだでわかったことや思ったことを話し合う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 部落問題を学ぶことによって、かつて部落に生まれたことを恥ずかしいと思っていたことが、恥ずかしいと思うようになった丸岡さんについて話し合う。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・部落問題に対する学習をしっかりとしていく中で本当のことがわかってきたから。</li> <li>・逃げていた自分から前向きに生きようとする自分へと変わっていった。</li> <li>・自分も以前は恥ずかしいと思っていた。でも友達と学習していく中で、だんだん恥ずかしさがなくなってきた。</li> </ul> </li> <li>○ 部落の子が非行に走り、手に負えなくなった、そのときにその子どもの裏側まで知って、その子どもの身になって考えていかなければならないということについて話し合う。               <ul style="list-style-type: none"> <li>・目に見える部分だけで人を決めつけるだけでなく、共にその重荷を背負っていかうとする人間になりたい。</li> <li>・目に見える表面的な部分でしか人を見ていないことが差別を残してきた。</li> <li>・部落差別の悲しみ苦しみの中で喘ぐ人たちの奥にあるものを知り、その奥にあるものを語っていけるような生き方をつかんでいきたい。</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・真実を知った部落問題の学習によって丸岡さんが変わっていったことをわからせる。</li> <li>・歎くより怒ることなんだという丸岡さんの心の中にわきおこってきた怒りが、丸岡さんを変容させていくエネルギーになっていることに気づかせる。</li> <li>・差別が貧困を生み、差別がさまざまな厳しい状況を生んできたということをつからせる。</li> <li>・目に見える部分にだけでなく、目に見えてこない、その奥に流れるものをつかき取り受けとめていくことが、すべての人間に問われているということに気づかせる。</li> </ul>

学 習 活 動	主 な 発 問 と 期 待 す る 生 徒 の 反 応	指 導 上 の 留 意 点
<p>2 丸岡さんの生き方を学び、同和</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• どんな状況にあっても人間は、差別に負けず前向きに誠実に生き続け、その間違いを訴えていくことのできる人間にならなければならないと思う。</li> <li>○ 信じ合い何でも話し合える仲間をつくっていかなければならないという丸岡さんの思いについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 本当の仲間をつくっていくことが私たちすべての幸せになっていく。</li> <li>• 信頼される人間となっていくために、被差別の立場に立つ仲間の悲しみを自分の悲しみとして生きていきたい。</li> <li>• この授業を通してもっともっと訴えて仲間の輪を広げていきたい。</li> <li>• 信じることは厳しくつらいことであるけど、信じることはとても強い力となっていくと思う。</li> <li>• 訴える中から本当の仲間はでき、道は開かれていくと思う。</li> </ul> </li> <li>○ 本当の民主的な世の中とは、誰もが生きてきてよかったと思える世の中でありそんな世の中をつくるのが私たちの生きることの意味だという丸岡さんについて話し合う。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• 部落差別をなくしていくということは、一切の差別をなくしていくことだ。</li> <li>• 弱い立場にある人たちを大切にすることがみんなの幸せにつながっていく。</li> <li>• すべての人間には生まれてきた意味がある。私たちは私たちの先に生きた丸岡さんたちの生き方を受け継いでいき、部落差別をなくしていくということが私たちの生きることの意味だ。</li> </ul> </li> <li>○ 丸岡さんの生き方を学んで思うこと、自分にとって丸岡さんとは何かを話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 磯村さん、磯永さんや真原さんという仲間を得てあったけのものが、書けるようになった丸岡さんの姿を通して考えさせる。</li> <li>• 一緒になって悲しみ、一緒になって腹を立てる中から信頼は生まれていくことをとらえさせる。</li> <li>• 信じ合える仲間をつくっていくために自分はどんな生き方をしなければならないかをとらえさせる。</li> <li>• 弱い立場の人々を大切に守り抜くことが憲法思想であり、民主主義思想であることをわからせる。</li> <li>• 人権とは人間が築きあげてきた文化であり、差別はその文化への反逆であることをわからせる。</li> <li>• 人権の意味、「人権とは自分自身を大切に守る権利、他人の尊厳を力強く守り抜く権利」を確認する。</li> <li>• 部落問題にかかわってどのように生きるのかという自分</li> </ul>

学 習 廻 動	主 な 発 問 と 期 待 す る 生 徒 の 反 応	指 導 上 の 留 意 点
問題にかかわる 生き方を考える。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 私が人間として生き抜くエネルギー。</li> <li>• 部落差別を許さないという生き方のエネルギーであり、その源となるもの。</li> <li>• 自分自身を励まし続けるもの。</li> <li>• 人間としての本当の生き方を学ぶことができた。</li> </ul>	<p>自身の生き方を語らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 自分にとって同和問題の学習が何であるかを考えさせる。</li> </ul>

### 同 和 問 題 ( 道 徳 ) 研 究 授 業 記 録

3年B組 指導者 森 口 健 司

- T<sub>1</sub> 丸岡さんの資料をみんなで勉強してきたわけですけど、今日は丸岡さんの生きざま、生き方に寄せるみんなの思いを語り合いながら、私たちの生き方、あり方を考えていきたいと思います。非常に蒸し暑い中ですけど、みんなの思いがふくらんでいく1時間にしたいと思います。
- T<sub>2</sub> 丸岡さんは部落問題を学ぶことによって、「かつて部落に生まれたことを恥ずかしいと思っていた。そのことが恥ずかしいと思うようになった」と言われています。その丸岡さんの思いについて、みんながこの学習の中から思うことを発表してもらいたいと思います。
- SN(女) 部落がどのような理由でできたのか。今までどうして差別され続けているのか。しっかりと学習する機会がなかったからだと思います。私たちは今、学校で部落差別について学習しているけど、昔は学習する雰囲気でなかったからだと思います。
- MM(男) 丸岡さんが部落に生まれたことを恥ずかしいと思ったのは、やはりまわりに負けてしまいそうな差別があったからだと思います。部落問題を学ぶことによって丸岡さんは本当の自分の生き方というものを見つけ出すことができ、恥ずかしいと思うことが恥ずかしいことだと、丸岡さんは気づいて、自分の間違いを正していくことができる人になったからすばらしいと思います。
- Y I(女) 私はどうして部落に生まれたことが恥ずかしいのかわからないんですけど、やはり差別があるから恥ずかしいと思ひ込まされているんだと思うんです。もしかしたら、私も板野に生まれたことが恥ずかしいと思うようになるかもしれないけど、板野には、私を一生懸命育ててくれたおじいちゃんやおばあちゃんがいる、一生懸命頑張ってくれているおじさんやおばさんのいることを忘れないように、今この勉強を真剣に進めていきたいと思っています。
- T<sub>3</sub> 今、3人が語ってくれたけど、付け加えて発表してください。
- H I(男) やっぱりまわりの環境が、部落に生まれたことを恥ずかしいように思わせていたんだと

思います。それで、親とかも仕方なしに子どもの幸せを願うならという感じで恥ずかしいことだから、世間に出さないように、かくすように教えていったんだと思います。

T<sub>4</sub> 差別が恥ずかしいと思わせていったということ。

SE(女) 部落の人たちはまわりの環境によって、部落は恥ずかしいという感じを植え付けられていったんだと思います。それで、結局、差別はいけないとわかってても、部落を恥ずかしいと思うことは、自分に差別心があるということだと思ふから、差別がいけないということがわかって、差別心を持っている自分に気づいて、恥ずかしがるのが恥ずかしいことだと思ふようになったんだと思います。

T<sub>5</sub> 自分自身の中に差別心があったという発言についてどうだろうか。

YO(男) 部落に生まれたことを恥ずかしいって思ふようにしていったのは、まわりの人だと思います。小さい頃はそんなことを知らなかったし、そんな恥ずかしいという思いはなかったのだから、まわりの人によってそう思わされてきたと思います。

YI(女) 私もSEさんが言ったように、自分が部落に生まれたことを恥ずかしいと思うのは、自分の差別心があるということで、部落ということを侮辱しているから恥ずかしいと思うんだと思いました。

T<sub>6</sub> 今のSEさん、YIさんの発言についてどう思いますか。

SN(女) 私も同じような意見なんだけど、自分が部落出身と聞いた時や部落出身でないで聞いた時に、ほっとしたりすごく悲しくなったりするのは、やはり自分の中に差別心があるからだと思います。安心するのはやはり差別心があって、もし自分が部落出身だったらと考え、悲しみを背負った人の立場に立つことができないことだと思います。また、悲しくなると涙が出てくるのは、自分が差別するのはいけないと頭でわかっているけど、そのようになってしまうのは、やはり差別心があるからだと思います。

MM(男) SNさんの意見について同じみただけけど付け加えます。部落と聞いてなんか重苦しくなるのは、いくら勉強していてもあるし、やはりその時は差別心がむき出しになっているようにぼくは思います。今までに何度か学習してきたけど、真剣に取り組んでいるというのは中学校2年になってからで、真剣に取り組むことによって、部落に生まれたということが恥ずかしいことではないんだと学習によって段々わかってきました。最初、部落に生まれたということがわかったとき、大きなショックがあって、そのショックが自分の中にある差別心からきていると今までの学習の中からわかってきたけど、まだまだ自分の中から差別心が出てくることがあると思います。

YI(女) それじゃあ、MM君は今、自分をどう思っているんですか。

MM(男) 今はやっぱりまわりに仲間がいるし、本音で打ち明けることのできる仲間をつくってきたいと思っているから、自分をさらけ出すことによってもっともっと仲間を増やしていくことができると信じています。

T<sub>7</sub> MM君の意見についてどうだろうか。

- T F (男) MM君は自分の考えをさらけ出して、友達とかが変わった目で見たらどうしますか。
- MM(男) その時に実際に変わったようでも、本当のことを語っていくことによって、日がたつにつれてより深い仲間というものができてきたように、今は思えるようになってきました。
- Y I (女) T F君に言いたいんだけど、本当のことを言って見る目が変わる友達はそれまでだし、本当のことをわかろうとしてくれる人でなければ友達とは言えないと思うし、本当の友達をつくるためにも、自分が部落出身であることを言ってしまった方が、私はいいと思います。
- MM(男) T F君にぼくが公開授業で部落出身と言った時に、友達の目が変わったような気がするのと相談したことがあったんだけど、そのことを気にかけてくれていると思うんです。その時は変わったような気がしたし、実際にも変わったように思うんです。やっぱり自分をさらけ出したら、相手の心も開いてくれると思うし、今は心のつかえがなくなって、みんなに部落出身であることを言ってよかったと思います。
- T F (男) MM君からまわりの目が変わったようにと思うと聞いた時には、ぼくもびっくりしたし、まさかMM君みたいに堂々と語れる子が、気にしているとは思ってもいなかったし、こんなに部落問題の勉強をしてきたのになんでかなあと思ったんです。まじめに頑張っていっても不安になる子ができるし、丸岡さんたちのようにみんなが「恥ずかしがることではない」という思いをしっかりとつかんでいかないかと思っています。
- T<sub>8</sub> T F君やMM君の思いに寄せて語ってみてください。
- S E (女) MM君の意見についてだけど、自分が部落出身だと言って差別するような仲間だったら、前も言ったけど、結局そんな友達だったら、最初からつくらん方がいいと思います。部落と言っても、同じように頑張ってくれたり、仲よくしていくことのできる友達をつくるのが大切だと思います。私は本当のことを言って離れていく友達を10人つくるよりは、本当の思いがわかり合える友達が一人いた方がすばらしいと思います。
- S N (女) MM君が部落に生まれたことを訴えることができたのは、やっぱり信頼できる人がいたからちゃんと言えたんだと思いました。それなのに、部落だと聞いて、どうしてもその人の見方が変わる人は、その人に勉強不足のところがあったり、差別心もあったと思うけど、その人もその人なりに自分の中にある差別心とたたかっていたのではないだろうかと思いました。
- T<sub>9</sub> 次のところを考えていきます。「部落の子が非行に走る、手におえなくなる。その時にその子の裏側、差別の中に置かれている差別の実態を知って、その子の身になって考えていかなければならない」と丸岡さんは資料の中で訴えています。丸岡さんが部落問題の学習の中から、子どもの裏側、差別の実態まで、その身になって考えていかなければならないと感じていったことについて、みんなの思いを発表してみてください。
- K H (男) 差別のこと、部落に生まれたことなど、友達の一番つらい部分を言ってくれる。ぼくはそんな友達と本当の友達になりたいと思います。口先だけでなく、その苦しみを自分の



このように感じていくことのできる仲間になっていかなければならないと思います。

MM(男) 今まで学習してきた資料の中にあっただと思うけど、地区外の子が悪いことをして非行に走っても、その子やその家だけの問題になっていくけど、部落の人が一人悪いことをしたら、部落全体を差別していくような社会があると思うんです。それは社会全体にまだまだ部落問題の学習が十分でないからそうになってしまうと思うんです。実際にぼく自身もこの学習に真剣に取り組み出したのは中学2年からだけど、差別する人には以前ぼくたちと同じように本当の学習がなされていないから平気で人を差別していく人間になってしまっていると思うんです。ぼくはしっかりとした部落問題の学習をしていくことによって、自分自身の中にある差別心が段々と見えてきて正していくことができるようになるけど、しっかりとした学習がなかったら、自分の差別心は段々と大きくなっていくと思います。

Y I(女) 私も非行に走る裏側までわかっていくことが必要だと思います。表面で説教するのは簡単だけど、そこからは何も生まれてこないように思います。だけど、今の私の本当の気持ちは、どうして部落に生まれたということだけで、非行に走っていくのかはちょっとわかりません。やっぱりそんな考え方はあかんのだろうけど、自分の本音を言ってみました。

S N(女) MM君の話にもどるんだけど、私も、MM君が言ったように、部落外の人が悪いことをしても、その子一人だけが悪いというんだけど、部落の中のだれか一人が悪いことをしたら、ああやっぱり部落は悪いという感じで、部落全員を悪いというように見ていってしまうところがあると思います。部落にも、部落外の人にも、どちらにもいい人がいて一生懸命頑張っている人がいるのに、どうしてそんな見方しかできないんだろうかなあって、すごく恥ずかしくなることがあるんだけど、この勉強をしていくうちにこんな考え方は間違っているなあということがわかって、前までは部落差別はなくならんと思ってたけど、みんなでの授業に頑張っていくうちになくなるんだという気持ちに変わってきました。

H I(男) さっきから気持ちが悪く感じちゃって、何を言ったらいいのかわからないところがあるんだけど、やっぱり非行に走る子は意志が弱かったんだと思います。差別と共に闘っていく友達がなくなって、負けてしまったところもあると思うけど、差別に負けて非行に走るといえるのは、自分が部落出身だということと涙を流すということにつながっていると思います。

S N(女) この勉強をし始めて、家族でもよく話し合うようになったんだけど、部落の子が非行に走るといえるのを前に家族で話し合った時に、部落の子が自分が部落とわかった時に3通りの道があるということをおとうさんが言ったんです。3通りの道というのは、一つ

は部落ということをずっとかくし通して、いつばれるかわからないという感じでひやひやしながら生きていく道と、それともうどうなってもいいわという感じで開き直って悪いことをしたりする道と、もう一つが、差別は間違っているということを訴えて部落解放に向けて生きていく道の3通りに別れると言ったけど、部落解放に向けて一生懸命取り組んでいく人の方がすばらしいなあと思います。

Y I(女) 私もSNさんと同じ意見で、部落に生まれたということをつらがるんでなくて、反対にそのことをバネとして差別されるということに怒って頑張っていかなあかんと思います。

MM(男) だけど、実際に学習したからわかってきたようなもので学習がなかったら、自分も部落解放の道には進まなかったと思います。

Y I(女) そしたら、MM君は悪いことをするんですか。悪いことをしたらその分だけ、部落が悪いように見られるんと違うんですか。

SN(女) 二人の言いたいことすごいわかるんだけど、やっぱりMM君が言うように学習がいると思うんです。私もこの学習がなかったら、間違った考え方でずっといたかもしれないし、部落の人が悪いことをすれば、また部落じゃという感じでどんどん差別されていくというのはわかるけど、私たちが今、一生懸命勉強していろんな人に授業なんかを見にきてもらって、見にきた人たちに私たちの気持ちを訴えることによって、見にきた人たちが家に帰っていろんな話をして、どんどん私たちの気持ちが広がっていけば差別はなくなると思います。

MM(男) さっきSNさんが3通りの意見を言っていたけど、今、自分が進んでいるのは部落解放への道だと思うけど、もし学習がなかったら、まあぼくは非行の道へはいかなかったとは思いますが、かくし通していたと思います。

T10 丸岡さんもそうでなかったらどうか。丸岡さんがふるさとの詩を書き、またさまざまな部落を語る、差別をなくすための詩を書くようになった。それは差別をなくすための学習があったからだと言う。そして、信じ合い、何でも話し合える仲間がいたから、堂々と差別解消に向けて自分をぶつけていくことができたと言われる。信じ合い、何でも話し合える仲間、これはみんなを見ていてしみじみ思うことです。この丸岡さんの思いに寄せてみんなが思うこと、感じることを語り合きましょう。

J K(女) 私は3年生になるまでは、自分が部落出身であることを絶対かくしていこうと思っていました。でも、いろいろな資料を勉強し、みんなの意見を聞いて、その言っていることを本当だと信じたとき、この仲間だったら私の一番つらい思いを打ち明けられることができると思うようになってきました。今、私は二人の友達に自分が部落出身だということを打ち明けています。まだ二人しか本当の友達はいないけど、これからはもっとたくさん本当の仲間を増やしていきたいです。

- T<sub>11</sub> JKさんの思いを受けとめてほしいと思う。
- YI(女) 私もJKさんにそのことを打ち明けてもらったんだけど、自分の一番苦しい部分を打ち明けてくれたんだから、私も心を開いて頑張っていかないかんと思うようになってきました。今、まだ二人にしか言えなかったかもしれないけど、もっとクラスの中の人たちがJKさんの気持ちを受けとめて、みんな今の時間を大切にしてほしいと思います。
- MS(女) 今、3年生でも、何人かの人、自分が部落出身ということを全体学習なんかで言ったんだけど、今JKさんが二人だけと言ったけど、ここにいる3Bのみんなの前や多くの先生方の前で言えたんだから、信じてくれたと思いたいです。私も部落に生まれたんだけど、恥ずかしいと思ったこと一度も……なかったけど……ほなけど言うて差別されたらいやじゃと思うてずっと言えなかったけど、このクラスの子だったら、信じてくれるからこのことが言える。
- SE(女) JKさんとMSさんが言ってくれたけど、これから今日打ち明けたことを後悔するようだったら、私はいったい今まで何をしてきたんかと思ってくれていいと思います。私も部落ということを言うた子を変な目で見ようなんて一つも思うてないし、見たらごっつい自分があほらしいなってくると思います。それで、この前読んだ本で心に残っていることなんだけど、一応世間で言う親友とは、親しい友と書いて何でも話し合える友達ということだけど、本当の親友とは、心の友と書いて自分の恥ずかしいところでも、何から何まで端から端まで話し合える友達は心友というそうです。私もそんな心友をたくさんつくりたいです。
- TK(女) 私も部落出身ですが、このクラスのみんなだったらこのことが言えると思います。この前友達に自分が部落出身ということを打ち明けたら……「ほんなん関係ないでえ」と言ってくれました。……私は本当の友達がいたんだということがわかったのでよかったなァと思いました。
- KK(女) 私はさっきTKさんの学習プリントを見せてもらったんだけど、最初見せてと言ったとき、いやじゃと言っていたけど、KKさんだったら信頼できるけんていうて見せてくれたんです。私やが信頼できる友達になっていかないかんと思います。
- T<sub>12</sub> みんな二人の発言をどう聞いたですか。
- MO(女) 私もTKさんに打ち明けてもらったんだけど……。
- T TKさんの分もがんばらな。
- MO(女) 信頼してくれていると言ってくれたんだけど、まだまだ力になれていない……。もっと勉強して、TKさんの力になっていくことのできる人間になりたいです。
- KU(男) まだ発表もできないでずっと座っているだけなのに、みんな信じてくれて発表してくれるのに、自分はこんなことしょっていいんだらうか。このクラスの子を信じて発表してくれるのにこんなことしょっていいのかと思いました。
- SN(女) 私はちょっと前に、まだこの勉強を始めて少ししかたっていない時に、ある友達から

部落出身じゃということ被打ち明けられて、なんとなくわかつたんだけど、本人から聞いてその子泣いていたし、ショックだって、夜とかあまり眠れなかったんだけど、そのことを打ち明けて涙を流している子を見たら、腹が立ってきてこういうふうはその子をここまで追いやる差別を許せないと思います。

KT(女) 私も部落出身ですけど、泣いている子を見たら泣いてほしくありません。そして、その泣いている外側だけ見てほしくありません。悲しみが深いから涙が出てきて止まらないんだけど、この悲しみや苦しみがわかっている友達がこのクラスにいっぱいいるし……。本当は今、泣きたいんだけど、涙をこらえています。

MM(男) やっぱり自分から心を開くことによって友達も心開いてくれるということが、今、本当にわかってきたと思います。心を開くことにより信じ合う友ができて、お互いに本音で思いをぶつけ合うことができると思います。お互いに涙が出るというのは、涙を流す友達の気持ちはわからないことはないけど、これからの学習によって涙は出てこなくなると思います。実際にほくもこのクラスでは、信頼している友はたくさんいるし、全体的にも友達はたくさんいる方だったけど、表面的な友達がほとんどで本当に信じ合った友達はあまりいなかったと思うんです。でも、この学習によって、信じ合える友達がほくも自身の中で増えていったと思います。自分から心を開くことによって、まわりの人も心を開いてくれたことが本当にうれしいです。心を開いてもまわりに反応がないんだったら、少しもおもしろくないと思います。この頃、公開授業や全体学習のある場面で口先だけでいい意見を言ったって、公開授業や全体学習の別の場面で寝ていたりする子が目に入ったら、とても腹が立ってめったに怒らんつもりなんだけど、自分でも押さえきれんぐらい腹が立つ時があるんです。でも、押さえないかんとって押さえています。みんな頑張っしてほしいと思います。

HI(男) ほくも部落の人間です。今までこのクラスにもそのことをわかってくれる友達はいいなと思っていただけ、「みんないいな」と思いました。森口先生に家庭訪問の時、「お前は部落の人間だ」と言われた時、自分には差別心がないと思っていたけど、実際にありました、それで、この授業では泣かないと思っていたけど泣いてしまいました。これからこれをバネとして部落解放の道に進んでいって、気軽に部落の人間と言えるような社会をつくっていきたいです。

SE(女) みんな泣きながら語ってくれているのに、涙が出てこん自分に腹が立つんだけど、心の中は泣きたい気持ちでいっぱいです。話は最初にもどるけど、MOさんがさっきTKさんの力になれないと言ったけど、みんな部落出身だと打ち明けた後も、いつも通り接していくことじたいが、その子の力になって一緒に闘っている証拠だと思います。

YI(女) 私もMOさんの意見についてだけど、私も、MOさんはTKさんの力になれていないと言っていたけど、ここで手を挙げて発表することがその人を支えていくことなんだと思います。今日一度も発表していない人がいると思うけど、ここで座ってお客さんのまま

終わってら、みんながこうやって心を開いてくれているのに、その人の気持ちを踏みにじることになっていくと思います。絶対一度は発表してどんなことでもいいけど、その人の思いに応えてください。

- KO(女) みんなの前で涙を流して発表している子を見ていたら、涙を出したいんだけど、心の中で泣いているけど、涙が出てこないという感じです。授業を今のうちにやっておかなければ、その人たちを自殺に追いやるかもしれないから、今のうちにみんな心を開いて、この学習を頑張っていかなければいけないと思いました。
- MM(男) ぼく自身、あまり人の涙を見るのはいやなんだけど、人の涙によって、自分の心の中になんか突き刺さって行って、これからの発表とかのエネルギーになるものがいっぱい生まれているように思います。涙を流してまで言ってくれるのはうれしくて、ぼく自身も泣きたい気持ちになっているし、みんなも涙を流して語ってくれる仲間の思いが心の中に突き刺さっていると思うから、どんなことでもいいから、まわりの人に、その思いをどう受けとめたか発表してもらいたいと思います。
- SN(女) みんなこんなに一生懸命になって発表しているのに、どうして下を向いていられるのかと思います。信頼されているんだから、何か言いたいという気持ちはみんなあるんだと思うけど、信頼してくれている人に何でもいいから応えてほしいです。
- MT(男) みんながぼくらのことを信じて真剣に発表してくれるのに、ぼくはその思いにあまり応えられていないので、これからは手を挙げて堂々と発表できるように頑張りたいと思います。
- KK(女) YIさんやSNさんの意見に付け足すようになると思うんだけど、一回も発表していない人は、みんなが泣きながら訴えているのに何も感じないんですか。何か思っているんだったら、手を挙げて発表してください。
- RH(男) ぼくは親から部落のことを聞かされて、中学校に入る前は部落というのがすごく恐かったんだけど、中学校に入って部落の友達ができただけど、みんないいやつばかりで、ほんまに部落差別を壊さないかなあと思いました。
- KM(男) ぼくは今までほとんど自分のことばかり考えていて、友達が部落だといってもあまり真剣に考えていませんでした。今日の授業でもみんな泣きながら自分のことをどどん言っているのに、支えることのできない自分がすごく情けないです。今回の発表をバネとして、みんなに応えられる人間になるように、これからの授業でどどん発表して信頼し合える仲間をつくりたいと思います。
- HM(男) 今まで発表してくれた子は、ぼくや他の子を信じて発表してくれたのに、今までぼくは心が重苦しくなって発表できなかったの、この授業を土台として部落差別を壊して重苦しくない社会をつくっていく一人になりたいと思います。
- MI(女) 今まで自分のことを打ち明けてくれた人に対して、ずっと私はうつむいてばかりいたんだけど、今まで学習してきて本当に自分自身の心から自分の一番つらいことを言えるのは、まわりが信頼できるということで、SNさんがさっき言っていたけど、みんな信頼されていると言ってくれて、私も信頼されているのかなあとあって、だけどどどん発表

できないというのは、自分の心の中にまだまだ差別心があるからだと思います。これからもこの差別心と闘って発表していきたいと思います。

S F (女) 私あまり人の涙はみたくないんだけど、私だって、中一のときは泣きたかったし、今までだって我慢してきたし……、差別というのはつらいから……、中一のときに味わった思いはもう二度と味わいたくない。差別に苦しむ人の姿も見たくない。みんながそんな苦しみを味わうことのないように頑張って勉強していきたいと思います。

K N (男) みんなは信頼してくれているけど、ぼくにはまだ信頼される程の力はないと思います。みんなに信頼されている限りは、みんなの期待を裏切らないように差別をなくすために頑張りたいです。

T<sub>14</sub> 時間がきました。最後にみんなの思いをかみしめて発表してください。丸岡さんとは、みんなにとって何であるのか。丸岡さんの生きざま、生き方を学習してきたことは何であったのか。

Y I (女) 先生にとって丸岡さんとか、みんなにとって丸岡さんとかは、すごい人かもしれないけど、私にとって丸岡さんというのはただのおじさんです。私の丸岡さんは、みんなであり、先生であり、みんなの丸岡さんは、みんなであり、先生であり、みんなが悲しむことにより私も悲しくなり、みんなが頑張ることにより、私も頑張らないかんと思う。私の一番中心はみんなです。この勉強をするにあたって絶対みんなを泣かしたくないと思います。みんなが笑ってちゃんとやっけていけるようになるまで、ほんまにみんな頑張っていかなあかんと思います。みんな頑張らましょ。

T<sub>15</sub> 終わります。

### 授業後の感想

「私は今日の発言で部落のことが恥ずかしくなくなりました。もう何のこだわりもありません。言っている時は自分で何を言っているのかわからず、涙が出てきたけれど、MSさんやJKさんが発言したのに、私だけ黙っていてもいけないなあと思っていたんです。そしたら、自然と手が拳がったのが不思議でした。心臓はドッキンドッキンと破裂しそうだったけど。私の発言の後、KKさん、MOさんたちが言ってくれて、ほっとして言ってよかったなあと思いました。泣くのは今日で終わりにします。MM君とか、KTさんとかも他人の涙は見たくないと言っていたし。今日の授業で私は多くの人に支えられているなあ実感しました。みんな信じ合える仲間です。板野に生まれたこと、部落に生まれたこと、まだまだ不安とかがあるけど、私は強い人間になりたいです。『敷くより怒ることだ』を胸にきざんで。今日で新しい道が開けたような気がします。今まで『学習会の通知やもらいたあない』と敷いていた自分がばからしくなりました。これからも学習会に参加していきたいし、どんどん学習していきたいです。いつか絶対絶対差別がなくなっていると思います。何か楽しみです。とにかく、今日の授業、忘れられない一日になりそうです。うれしかった。よかった。ビデオ貸してください。」(TK)

「今日一つの変革が起こったようだった。今日の授業で、どうして丸岡さんがこんなに訴え続けてきたのか。それを僕らがどう受け止めるかが見えてきたような気がします。今までMM君一人にたたかわ

せているようなものだったけど、今日の授業は自分にとっても助っ人みたいになったし、本当に仲間になれたと思う。今日が出発のようなものです。これからの航海をどうしていくか。これからもっともっと話のできる友達を増やしていきたいと思う。今日、僕は泣いてしまった。泣こうと思っていなかったのに涙がこぼれた。家庭訪問の時は、目に涙を浮かべたけど流すことはなかった。家庭訪問の時の涙は、心の奥底に差別心があってでてきた涙だったかもしれないけど、今日の涙は違う別のものだと思います。」( H I )

「今日の授業、いつもの雰囲気火をつけたのがJ Kさんだったように思う。『私は部落出身ですが……』その言葉にはじかれたみたいにMSさんたちが自分のことを打ち明けていった。そして、正直言ってH I君の涙には驚いた。今まで忘れかけていた人間の本質を思い起こさせてくれた涙だった。今日何人もの人が部落出身であることを打ち明けた。聞いたとき、『ふーん、あの子も部落出身なんかー』そう思っただけでそれ以上は何も感じず、打ち明けてくれたうれしさのようなものがあった。今日言った子は私たちを信じて言ってくれた。これからこの問題でくじけかけたとき、『私は信頼されているんだ』と思って頑張っていこうと思う。今日の授業を終えて私が3 Bのみんなに言いたかったことは『ありがとう!』だった。私を信じてくれた人たちへのありがとうの気持ちだし、こんな最高の授業をしてくれたみんなへのありがとうも含まれている。絶対50分は短か過ぎた。勇気を持って手を挙げたとたん、チャイムが鳴って意見が言えなかった子を見たとき、『もったいない』と思った。せめてあと15分ほしかった。そしたら、もっといい授業だっただろうに……。私たちはまた大きくなった。まわりで見ていた先生たちにも何かを与えたと思う。そして、差別解消の出口に近づいた。こんな授業は二度とないかもしれないけど、今日の授業に参加できたことずっと残っていくと思う。今日をステップにまた頑張っていきたい。」( S E )

「今日の授業、涙を流して自分が部落出身だと語ってくれた友達がいた。私は友達が言ったとき、手を挙げるつもりでいたのに、何か友達の存在が大き過ぎて、その友達の言葉が思い切り、私の心の中の差別心を刺したような気がした。Y IさんやKKさんが『このまま黙って下を向いているより、友達の気持ちを受け止めて発表して』と言われたとたん、すごい心の中で熱いものを感じました。こんなに涙が出る程、この授業に取り組んだのは初めてです。みんな3 Bの仲間を信頼しているからこそ、泣きながら語ってくれた言葉なのに、今まで下を向いてよそ事を考え、ぶつかってきてくれる友達にそっぽを向いていた自分が今日すごく恥ずかしかった。私は授業の終わりに2回ぐらい手を挙げただけで、チャイムが鳴って発表できなかった。でも私は、私なりに今日みんなの前で語ってくれた友達の言葉を体全体で受け止めたつもりです。最後に私をここまで変えてくれた3 Bのみんな、それから先生に何かのきっかけで巡り会えたことを感謝しています。」( Y N )

